

専攻医
の主張

～3年間の専門研修を終えて～

北部医療センター安佐市民病院 総合診療科 田中 基樹

私は2021年4月に総合診療専門研修をスタートし、本年3月に無事研修を修了することができました。総合診療医には幅広い現場（診療所から大規模病院まで）で幅広い患者（小児から高齢者まで）に対応できるスキルが求められるため、3年間でさまざまな施設で研修を行うプログラムが組まれています。失敗談も交えながらこの3年間の振り返りたいと思います。

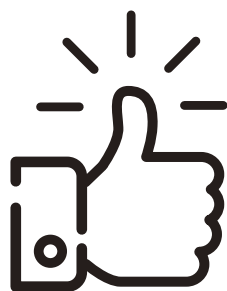
1年目の広島大学病院での研修では、さまざまな疾患や複雑な症例に触れる機会が多く、臨床経験の幅を広げることができました。また、先輩医師や他科専門医からの指導やアドバイスを受けながら、医療知識・技術の基礎を固めることができました。一方でレジデントとして初めて病棟で中心的に働く中でコメディカルとのコミュニケーションに難しさを感じることもありました。診療内容について自分のいない場で苦言を呈されコメディカルとコミュニケーションを取れなくなった時期もありましたが、先輩から「職種が違えば知識や考え方も違うし、いろんな人がいるから一人一人とコミュニケーションを取ろう」とアドバイスを受け、改めて一人一人の名前から覚えることから始めて、徐々に多職種で連携して診療にあたるできるようになったと思います。

2年目の青崎いぶきクリニックでの研修では、大学病院と全く異なる環境の中で、個々の患者のニーズや希望を考慮した密接な関わりやフォローアップの重要性を学びました。また、診療

効率や患者満足度といった経営上重要な視点を身に付けることもできました。その中で難しいと感じたのが夜間や休日に患者からかかってくる電話への対応でした。電話では状態の把握が難しく対応に悩むことが多かったのですが、自分の不安や迷いが電話越しに伝わってしまい、患者を怒らせてしまうこともありました。電話においてもまずは患者の不安な声をしっかりと聴く、どういう状態なら救急車を呼ぶのかを伝える。悩むときは少し時間をもらって回答するといった丁寧なコミュニケーションを取ることによって信頼関係が築けるように努めました。

3年目の北部医療センター安佐市民病院では、9ヵ月の救急・総合診療科研修と3ヵ月の小児科研修を行いました。救急車の受け入れから入院加療、退院まで一連の流れを多く経験することができましたが、中には自分の力では解決できないような状況もあり、診療が滞って焦りと混乱が広がってしまうこともありました。この経験で、救急医療の現場での臨機応変な対応の重要性を身に染みて理解させられました。また、チームとの協力や指示を仰ぐことの大切さも学びました。小児科研修は短期間でしたが、小児に特有の疾患を多く経験することができました。

今後は、チームと協力しながら質の高い患者中心の医療を提供できるよう、学び続ける姿勢を大切にしたいと思います。そして、少しでも地域医療の発展に貢献できる総合診療医を目指して成長していこうと思います。



Facebook更新中!

もみじ医が広島県医師会のイベント情報をお知らせしています。

フォローして最新情報をチェックしましょう。

